

平成28年度 事務事業点検評価報告書

平成 29 年 8 月

舞鶴市教育委員会

目 次

| | | |
|---|--------------|----|
| 1 | 事務事業の点検評価の趣旨 | 1 |
| 2 | 点検評価の概要 | 1 |
| 3 | 各事業の評価 | 3 |
| 4 | 教育委員会活動の概要 | 15 |

1. 事務事業の点検評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について評価委員による点検及び評価を行い、その結果について公表しなければならないことと定められています。

この度、平成 28 年度に執行した事務事業について、評価委員による点検及び評価を行いました。

この結果を踏まえ、事業の必要性、有効性、効率性の検討を行い、今後より一層充実した事業の推進に努めてまいります。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」 (抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の概要

舞鶴市教育委員会の権限に属する平成 28 年度の主な事務事業について、事業の目的、内容、成果等について評価委員が下記の評価の視点に基づき、評価を行ったものです。

(1) 実施日

平成 29 年 8 月 3 日 (木)

(2) 評価委員

(敬称略)

| 所属団体等 | 氏名 |
|--|---------|
| 高等教育機関代表 学校法人 聖ヨゼフ学園 日星高等学校 校長 | 水 嶋 純 作 |
| 幼児教育機関代表 舞鶴市私立幼稚園協会 会長 中舞鶴幼稚園 園長 | 眞 木 康 則 |
| 保護者代表 舞鶴市 P T A 連絡協議会 会長 | 堀 口 宏 之 |

(3) 点検評価事業

| No | 事業名 | 担当課 |
|----|------------------------------|----------|
| 1 | 小中一貫教育推進事業費 | 教育企画課 |
| 2 | 夢チャレンジサポート事業費（中学校） | 学校教育課 |
| 3 | 特色ある教育活動支援事業費補助金（小・中学校） | |
| 4 | 特別支援教育支援員設置経費（小・中学校） | |
| 5 | 英語指導助手（AET）設置経費 | |
| 6 | いじめ・不登校対策経費 | |
| 7 | 学校給食運営経費（小・中学校） | |
| 8 | 教員長期派遣研修事業費 | |
| 9 | 施設整備事業費（小・中学校） | |
| 10 | 校舎等改修事業費（小・中学校）[H27→H28 繰越分] | |
| 11 | 乳幼児教育ビジョン推進事業費 | 幼稚園・保育所課 |

(4) 評価の方法

① 評価の視点

点検評価では、各事業の評価を行うにあたり、次の視点で評価委員に考察、評価を行っていただきました。

| 区分 | 視点 |
|-----|-----------------------------------|
| 必要性 | 市民ニーズや社会情勢に適合しているか。市が事業を担う必要があるか。 |
| 有効性 | 事業目的に照らして、効果が現れているか。 |
| 効率性 | 実施方法などについて成果に見合ったコストになっているか。 |

② 評価判断基準

評価は「必要性」「有効性」「効率性」について、各評価委員に次のとおり5段階で評価いただき、その平均を点数化しました。

| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-----|----|------|----|------|----|
| 必要性 | | | | | |
| 有効性 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
| 効率性 | | | | | |

3 各事業の評価

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|--------------------------|---|---|--------|----------|---|
| 事務事業名 | 小中一貫教育推進事業費 | 担当課 | 教育企画課 | 事業No | 1 |
| 事業費 (H28決算) | 6,828 千円 | 財源内訳 | 一般財源 | 6,828 千円 | |
| | | | 国府補助金等 | 0 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>切れ目ない教育の推進</p> | | | | |
| 事業目的 | 義務教育9年間を連続した期間と捉え、児童生徒の発達の段階に応じた一貫性のある学習指導・生徒指導を行うとともに、教職員や児童生徒が連携・交流を深めることにより、小学校と中学校が協働して系統的・継続的な教育を推進することで、子どもの学力定着と学校生活への適応(中1ギャップの解消)を目指す。 | | | | |
| 事業内容 | <p>① 先行的に取り組むモデル校区を2中学校区(城北、加佐)指定し、以下の支援を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2名のコーディネーター(指導主事)による指導・助言 ・小中・小中連携事業に伴う移動手段(バス等)の手配 ・モデル校区リーフレットの作成、取組状況の発信(ホームページ、ニュースレター)他 <p>② 舞鶴市版の標準カリキュラム(音・図・美、技家、保体、特活)の作成</p> <p>③ 翌29年度から取り組むモデル校区の選定</p> | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | <p>①②については、計画どおりに実施することができた。</p> <p>③については、青葉中学校区と和田中学校区をモデル校区に選定し、導入に向けた保護者・地域説明会を開催した。</p> | | | | |
| 課題 | モデル校区における成果や課題を把握・整理し、円滑に進むよう市教育委員会としてサポートしていく。また、未導入の中学校区にも早期に導入することができるよう取り組んでいく。 | | | | |
| 今後の 方向性 | 平成30年度からの全市導入を目指す。 | | | | |
| 評価委員 による 事業の 評価 | 必要性 | 評価点数 | 4.3 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・中1ギャップの解消に必要である。 ・小中一貫教育の推進は重要であり、小・中学校教員の相互の乗り入れや地域として児童生徒の活動の見守りを推進してほしい。 ・趣旨は理解できる。進めるべきである。 | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 3.7 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・広く市民に伝える必要がある。 ・教員が小・中学校を越えて研鑽する姿が見える。 ・中長期の見通しを持ち、今後に期待する。 ・施設分離型のため、難しい部分もあると思うが、今ひとつ効果が見えない。 | | | |
| | 効率性 | 評価点数 | 3.0 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上を図るため、どこにコストをかけるか検討が必要である。 ・子ども達の健やかな発達を願っている。 ・コーディネーターの役割と対価が妥当であるか。 | | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|----------------------|--|---|--------|-----------|---|
| 事務事業名 | 夢チャレンジサポート事業費(中学校) | 担当課 | 学校教育課 | 事業No | 2 |
| 事業費 (H28決算) | 23,669 千円 | 財源内訳 | 一般財源 | 13,170 千円 | |
| | | | 国府補助金等 | 10,499 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</p> <p>・ふるさと学習の推進</p> | | | | |
| 事業目的 | 子どもたちの夢を育み、その夢の実現を支え、将来、社会に貢献できる人材に育成するために、学力向上に向けた支援を行う。 | | | | |
| 事業内容 | <p>1. 学力チャレンジ…生徒の学力状況を把握し、学習改善につなげるとともに生徒が自分の学力を把握し進路実現に活かすため、中学校で統一の学力診断テストを実施。(全学年)</p> <p>2. 検定チャレンジ…舞鶴在住の中学生を対象に英語検定料を補助。(4・5級は1/2補助、3級以上は全額補助)</p> <p>3. 夢講演会…生徒が将来の夢を考えるきっかけとするため、外部講師による講演会を実施</p> <p>4. 夢サポート事業…各学校の学力向上、教職員の資質の向上等の取組や学校風土、地域風土に応じた特色のある教育活動を支援。</p> <p>5. 学習サポーターの配置…学力診断テストを活かした学力・学習状況の把握・分析に基づき、個に応じた効果的な学習指導を図るため、教員OB等による支援員(サポーター)を配置し、きめ細かな対応。</p> <p>6. 配信サービスを利用した個々の学習課題に応じた学習用プリント作成。</p> | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | <p>1. 学力チャレンジ…舞鶴市統一学力診断テスト(夢チャレンジテスト・5教科) 市内7中学校 全学年 2,312名が受験 ※順位の開示を希望した保護者 … 84.5%</p> <p>2. 検定チャレンジ…英語検定(6月、10月、1月) 計 718名受験 <合格者> 2級 1名、準2級 15名、3級98名、4級187名、5級152名、計 453名</p> <p>3. 夢講演会…全校実施 8講演</p> <p>4. 夢サポート事業…各学校ごとに取組を実施</p> <p>5. 学習サポーターの配置…支援員(サポーター)13名を配置</p> | | | | |
| 課題 | 全ての生徒が将来の夢や目標を持つとともに、その実現へ向け、学習意欲を高めることが必要 | | | | |
| 今後の 方向性 | 子どもたちの夢を育み、その夢の実現を支えるため、引き続き、各事業を実施していくとともに、舞鶴市統一学力診断テストにより学力定着状況を把握し、指導改善に活かしていく。 | | | | |
| 評価委員による 事業の評価 | 必要性 | 評価点数 | 5.0 | | |
| | | <p>・教育格差をなくすための施策として重要である。</p> <p>・常に夢を持ち、高い志を持って、挑戦することは大切である。</p> <p>・様々な機会を与えることが重要で、今後も拡げていきたい。</p> | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 4.3 | | |
| | | <p>・英検等の検定料の援助により、受験者や合格者の増加に繋がっている。</p> <p>・学力テストなどは効果が目に見えるが、「夢講演会」や「夢サポート事業」にももう少し予算の配分を拡げてほしい。</p> | | | |
| | 効率性 | 評価点数 | 4.0 | | |
| | | <p>・費用対効果がよく分からない。</p> <p>・学習サポーターと教員との連携が必要である。</p> <p>・「夢講演会」は何年に一度か大きく予算をとって、全市的に行うことも一考してほしい。</p> | | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|----------------------|--|------|----------------|--------------------|---|
| 事務事業名 | 特色ある教育活動支援事業費補助金 (小・中学校) | 担当課 | 学校教育課 | 事業No | 3 |
| 事業費 (H28決算) | 7,011 千円 | 財源内訳 | 一般財源 国府補助金等 | 6,311 千円 700 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ふるさと学習の推進</div> | | | | |
| 事業目的 | 地域の方々などの協力のもと、地域に根ざした特色ある学校づくりや教育活動を推進するための支援を行うとともに、豊かな体験活動を実施し、「生きる力」の核となる「豊かな人間性」を育てるとともに、本市の特色ある歴史や豊かな自然について学び、「ふるさと舞鶴」への愛着を育む。 | | | | |
| 事業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動支援事業 地域の方々などの協力による特色ある教育活動を支援。 小学校6年生の社会科学習で引揚記念館を見学する「ふるさと学習」を実施。 2. 地域ふれあい体験活動事業 職場体験(小学4年生、中学2年生)、世代間交流、福祉職場体験、農業体験、伝統的文化活動など通年の教育活動として体験活動を実施。 | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動支援事業 総合的な学習の時間、体験活動、野外活動、クラブ活動、部活動等において、地域の方々との協力のもと特色ある教育活動の支援を実施した。 2. 地域ふれあい体験活動事業 地域や学校の実態に応じて創意工夫し、職場体験(小学校では仕事についての学習や体験活動を含む)、農業体験など通年の教育活動として体験活動を実施した。 小・中学校での地域人材等による取組や、全校で実施の小学5年生の野外活動、6年生の「引揚の歴史を学習するふるさと学習」、中学2年生の職場体験活動など、特色ある教育活動を通して、ふるさと舞鶴を愛するふるさと学習の推進を行うとともに、豊かな人間性の育成を図った。 | | | | |
| 課題 | ふるさと学習に協力いただける幅広い地域人材の発掘。 | | | | |
| 今後の 方向性 | 「豊かな人間性」を育てる「心の教育」の充実を図るため、引き続き、学校現場のニーズに応え、特色ある教育活動を支援していく。 | | | | |
| 評価委員による 事業の評価 | 必要性 | 評価点数 | 4.7 | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 4.7 | | |
| | 効率性 | 評価点数 | 4.3 | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|----------------------|---|---|----------------|-------------------|---|
| 事務事業名 | 特別支援教育支援員設置経費 (小・中学校) | 担当課 | 学校教育課 | 事業No | 4 |
| 事業費 (H28決算) | 29,699 千円 | 財源内訳 | 一般財源 国府補助金等 | 29,699 千円 0 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</p> | | | | |
| 事業目的 | 通常学級、特別支援学級に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、適切な教育的支援を行う。 | | | | |
| 事業内容 | 支援員の配置 ・小学校 15校・26名 ・中学校 6校・12名 | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | 年度当初、教育上特別な支援を必要とする児童生徒は、小学校は18校に451名、中学校は7校に194名が在籍。これら児童生徒に適切に対応するため、小学校15校に26名、中学校6校に12名の特別支援教育支援員を配置。 通常学級、特別支援学級に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒の個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実に努めた。 | | | | |
| 課題 | 特別な教育的支援を必要とする児童生徒が年々増える傾向に併せて、支援員の配置も増加しており、支援員の確保が課題となっている。今後、特別支援教室構想(通常の学級に在籍した上で障害に応じた教科指導や障害に起因する困難の改善・克服のための指導を必要な時間のみ特別の場で行う形態)についても、検討する必要がある。 | | | | |
| 今後の 方向性 | 今後とも、通常学級、特別支援学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、支援員を配置し、適切な教育(支援)を推進していく。 | | | | |
| 評価委員による 事業の評価 | 必要性 | 評価点数 | 5.0 | | |
| | | ・今後も支援が必要な児童生徒は増加すると思われるので重要である。 ・必要であるし、更なるフォローも増えてくると思う。 ・今日的課題であり、安心して就学できる場の確保は必要である。 | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 4.3 | | |
| | | ・効果測定の方法を確立する必要がある。 ・支援員の能力の向上と、明るく前向きな対応を心掛けてほしい。 ・支援員だけでは、手が回らない部分もあるので、一般の教員も巻き込むことが、今後は必要である。 | | | |
| | 効率性 | 評価点数 | 4.7 | | |
| | | ・支援員任せにならないよう、学校全体の理解が必要である。 ・支援員の資質向上が鍵なので、研修に費用をかけてほしい。 ・もっと手厚くすべきところもあると感じる。 | | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|----------------------|--|--|--------|-----------|---|
| 事務事業名 | 英語指導助手(AET)設置経費 | 担当課 | 学校教育課 | 事業No | 5 |
| 事業費 (H28決算) | 33,566 千円 | 財源内訳 | 一般財源 | 16,786 千円 | |
| | | | 国府補助金等 | 16,780 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> グローバル化社会に対応する教育の推進 </div> | | | | |
| 事業目的 | 今後、ますます進展する国際社会を豊かに生き抜くことができる児童生徒を育成するため、小中学校の各段階を通じて英語教育を充実させ、国際理解教育を推進する。 また、平成25年度から小学校3年生以上に拡大された英語教育において、小学校中学年ではコミュニケーション能力の素地を養い、高学年では初歩的な英語の運用能力を養い、中学校では身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養うことを目標に、AETの配置を行い英語力向上を目指す。 | | | | |
| 事業内容 | AET7名を配置し、小学校3～6年生を対象とした英語活動及び中学校英語科の授業で指導助手を行った。 ・英語授業の補助(発音指導・ヒアリング指導等)・英語教材作成の補助 ・英語担当教員に対する研修・小学校英語活動・国際理解教育 他 | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | 外国人から直接生きた英語を学ぶことができ、また、その出身国の状況等を理解する上で大変意義のある英語教育の充実並びに国際理解教育の一層の推進が図れた。(学校訪問 延べ1,422回) | | | | |
| 課題 | できるだけ早い時期から「英語」の発声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養い、中学校卒業段階で英検3級程度の英語力を身につけさせるという文科省の目標に近付くため、英語担当教員の指導力向上や人的配置など事業の充実が求められる。 | | | | |
| 今後の 方向性 | 国において、平成32年度から小学校5・6年生の英語の教科化が予定されており、英語教育の充実と国際理解を推進していく必要がある。 | | | | |
| 評価委員 による事業 の評価 | 必要性 | 評価点数 | 4.3 | | |
| | | ・今後の国際化に向けて必要である。 ・国際社会に生きる子ども達のためには必要である。 ・早い段階で、慣れない言葉や人・文化に触れることは必要である。 | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 4.0 | | |
| | ・各学校1人を配置しないと、あまり有効ではない。 ・まち全体の国際化が必要である。 ・限られた時間のため、目に見える効果を得ることは難しいと思うが、きっかけ作りとして良い取組みである。 ・外国語学習というより、異文化や未知の世界に触れる良い機会だと思う。 | | | | |
| | 効率性 | 評価点数 | 3.3 | | |
| | ・今後、英語は必要になる。 ・担当教員の指導力向上のための研修が必要である。 ・報酬額に見合う教員ならば仕方ないが、報酬が高く感じる。 | | | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | | |
|----------------------|--|--|----------------|-----------------------|---|--|
| 事務事業名 | いじめ・不登校対策経費 | 担当課 | 学校教育課 | 事業No | 6 | |
| 事業費 (H28決算) | 18,067 千円 | 財源内訳 | 一般財源 国府補助金等 | 11,871 千円 6,196 千円 | | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</p> <p>・心身ともに健全な子どもの育成</p> | | | | | |
| 事業目的 | <p>心理的要因等により不登校となっている児童生徒に対し、学校生活への復帰と社会的自立を支援するため、学校と教育支援センター(名称:明日葉(あしたば))が連携し、集団生活への適応や情緒の安定、学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行う。また、いじめ問題については、いじめ防止、早期発見、早期対応を図るとともに、いじめ相談室を併設し、いじめ相談ダイヤル等により、きめ細かな相談・対応を行う。(平成16年度に「教育支援センター」を設置、平成25年度に「いじめ相談室」を併設)</p> | | | | | |
| 事業内容 | <p>1. 教育支援センター(明日葉)の概要</p> <p>(1) 事業内容 適応指導、学習指導、訪問指導、教育相談、いじめ相談等</p> <p>(2) 場 所 メディカルセンター3階</p> <p>(3) 子ども相談員 3名、臨床心理士 1名</p> <p>2. チャレンジアウトドアライフ事業の実施</p> <p>不登校児童生徒を対象とした野外体験活動の実施</p> <p>3. いじめ相談センターの概要</p> <p>いじめ相談員2名 いじめ相談ダイヤル開設</p> | | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | <p>1. 教育支援センターでの適応指導、学習指導、訪問支援、教育相談等の取組 来所相談(465件)電話相談(1,486件)家庭訪問(370件)訪問支援(46件)はがき支援(160)</p> <p>2. チャレンジアウトドアライフの実施(延べ 27名参加) 京都水族館での野外活動、若狭湾青少年自然の家での宿泊野外活動 長期欠席している児童生徒が学校復帰や高校進学に向け、通級し目標を達成するなど、「明日葉」に通級等している児童生徒24名(小学11名、中学13名)のうち、学校へ復帰した児童生徒が22名(小学校10名、中学校12名)となった。</p> <p>3. いじめ相談室の相談状況(電話相談91件、来所相談17件)</p> | | | | | |
| 課題 | <p>人間関係づくりに時間を要し、また、個別の状況に応じた対応が必要なため、経験豊かな相談員が児童生徒と信頼関係を築く中で取り組む必要がある。</p> | | | | | |
| 今後の 方向性 | <p>明日葉やいじめ相談室の活動を通して、不登校の解決といじめ相談の充実を目指す。また、学校でいじめや嫌なことがあっても先生や友だちに相談できない子どもたちや、子どものことで悩んでいる保護者に対し、1人で悩まずに電話相談できる体制の充実を図る。</p> | | | | | |
| 評価委員による 事業の評価 | 必要性 | 評価点数 | 5.0 | | | |
| | | <p>・今後も事業の充実が必要である。</p> <p>・先生、保護者、生徒児童、地域も真剣に取り組む必要がある。</p> <p>・一人も漏れることなく支援していく必要がある。</p> | | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 4.7 | | | |
| | | <p>・今後も事業の充実が必要である。</p> <p>・スーパーバイザー(業務指導者)の配置が必要である。</p> <p>・相談員の専門性を上げる。</p> <p>・早期発見と早期対応が大切である。</p> <p>・様々な相談があり、対応は相当程度出来ていると感じる。</p> | | | | |
| | | 評価点数 | 4.3 | | | |
| | 効率性 | <p>・事業費の効果的配分を行うべきである。(研修、大学生の活用)</p> <p>・社会の課題として捉えて、地域や民生委員等、みんなで後押しすることが大切である。</p> <p>・お金の問題ではなく、大切な時期の子どもを一人も漏れることなく救う体制を整備してほしい。</p> | | | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|----------------------|---|------|----------------|---|---|
| 事務事業名 | 学校給食運営経費(小・中学校) | 担当課 | 学校教育課 | 事業No | 7 |
| 事業費 (H28決算) | 403,105 千円 | 財源内訳 | 一般財源 国府補助金等 | 403,105 千円 0 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>心身ともに健全な子どもの育成</p> | | | | |
| 事業目的 | 安心・安全で栄養バランスのとれた魅力ある給食を全小・中学校で実施する。 | | | | |
| 事業内容 | <p>1. 小学校全18校に栄養士を配置し、自校調理方式により給食を実施 2. 中学校全7校でスクールランチ方式による給食を実施 3. 地場産野菜、舞鶴産水産物・舞鶴産コシヒカリなど、地元産の安全な食材を使用 4. 食育の推進</p> | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理食数 延898,674食(H28.5.1児童数 4,526人他) ・地場産物(万願寺甘とう、舞鶴のさかな等)についての食育授業 ・ウズベキスタン料理を給食に取り入れ、舞鶴との関わりを学習 ・食物アレルギー児童(152名)への対応 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理食数 延434,167食(H28.5.1生徒数 2,377人他) ・教育委員会の栄養士が献立を作成 ・食物アレルギー生徒(86名)への対応 ・「食育だより」を月1回発行し、各校へ配布(ホームページで公表) ・アンケート実施 | | | | |
| 課題 | 年々、増加するアレルギー児童・生徒の除去食等の確実な対応と中学校での食育指導の充実が必要である。 | | | | |
| 今後の 方向性 | 今後とも、引き続き、安心・安全で地産地消を積極的に取り入れた魅力のある給食の提供に努める。 | | | | |
| 評価委員による 事業の評価 | 必要性 | 評価点数 | 4.7 | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 4.7 | <p>・中学校給食のアンケートに、給食が好きでも嫌いでもない、いつも残しているが半数になっているため、原因を突き止め改善に繋げてほしい。 ・地元食材を使用することは、食育やふるさと学習の観点からも有効である。</p> | |
| | 効率性 | 評価点数 | 4.0 | <p>・食育の重要性を市民に啓発してほしい。 ・美味しく食べる環境づくりも必要である。(ランチルームの整備やバイキング形式の導入) ・保護者の意識を高めるため、給食参観の充実をしてほしい。 ・小学校の給食だけで考えると満点だと思うが、中学生の評価を見ると少し検討すべき点があると感じる。</p> | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|------------------------------|---|---|--------|----------|---|
| 事務事業名 | 教員長期派遣研修事業費 | 担当課 | 学校教育課 | 事業No | 8 |
| 事業費 (H28決算) | 7,836 千円 | 財源内訳 | 一般財源 | 7,836 千円 | |
| | | | 国府補助金等 | 0 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">教師等の資質能力の向上</div> | | | | |
| 事業目的 | <p>中学校の教員を福井県教育委員会へ長期派遣し、先進的な授業を学び、教員の授業力の向上を図る。また、派遣終了後は、本市の指導的教員として教員全体の授業力向上に努めることにより、生徒の学力向上を図る。</p> | | | | |
| 事業内容 | <p>中学校の教員1名を「全国学力・学習状況調査結果」で、全国トップレベルの福井県教育委員会へ1年間派遣し、先進的な授業方法等を学び、教員の授業力向上を図る。</p> | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | <p>中学校の教員1名を福井県福井市立明道中学校へ派遣し、1年間の研修を行った。また、派遣教員から福井県における指導・授業・環境等研修内容について、月1回の定例報告会(11回)や中学校長会などで、報告を受けた。</p> | | | | |
| 課題 | <p>派遣教員が1年間研修してきた成果を、どのように学校現場に組み入れ、教員の授業力向上、生徒の学力向上につなげていくか、教育委員会と連携しながら、検討していくことが必要である。また、福井県以外の新たな派遣先についても検討が必要である。</p> | | | | |
| 今後の 方向性 | <p>派遣職員が研修してきた福井県の教育内容・仕組み等について、導入すべき又は充実すべき内容を取り入れ、本市教育の充実につなげ、生徒の学力向上をめざす。</p> | | | | |
| 評価 委員 による 事業 の評価 | 必要性 | 評価点数 | 4.0 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に繋がる取組になるとよい。 ・先進地に習うことは必要であるし、継続してほしい。 | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 4.0 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・1名では効果が出にくいので、複数名を派遣するとよいと考える。 ・校長会への報告だけでなく、受け皿となる研究会などが必要である。 ・持ち帰ったものを広く全市に発信し、良いところは取入れてほしい。 | | | |
| | 効率性 | 評価点数 | 3.7 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・1名にかかる費用の負担が大きいので、京都府の補助金等も検討する必要がある。 ・もっと事業を拡げてもよいと思う。 ・この予算で、変わるきっかけとなるなら安いものだと思う。 | | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|----------------------|---|---|--------|-----------|---|
| 事務事業名 | 施設整備事業費(小・中学校) | 担当課 | 教育総務課 | 事業No | 9 |
| 事業費 (H28決算) | 79,300 千円 | 財源内訳 | 一般財源 | 51,300 千円 | |
| | | | 国府補助金等 | 28,000 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学校等における教育環境の充実 </div> | | | | |
| 事業目的 | 児童生徒の安全を守り、安心して豊かな教育環境を整備する。 | | | | |
| 事業内容 | 老朽化した校舎や設備の改修、教育環境充実のための施設整備 | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・校舎屋上防水改修工事(高野小・和田中) ・学級増に伴う、給食室改修(志楽小)冷暖房設備増設(中筋小) ・特別教室等の普通教室化に伴う改修(余内小) ・その他各校改修工事及び修繕(388件) | | | | |
| 課題 | 今後経年劣化していく学校施設が増加するため、改修等に要する事業費の確保が必要 | | | | |
| 今後の 方向性 | 舞鶴市全体の取組である市有建築物の点検マニュアルに沿って施設点検を行い、不具合箇所を早期発見することで、最小限のコストで健全な状態の維持に努める。また、大規模な改修については、国の動向に合わせ、事業計画の見直しやより有利な財源の確保を検討しながら、遂行する。 | | | | |
| 評価委員による 事業の評価 | 必要性 | 評価点数 | 4.7 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な環境づくりに必要である。 ・児童生徒にとって、安全な環境を整えることは一番大切である。 ・事故のない安全な学校であってほしい。 ・教育環境の整備は絶対に必要である。 | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 4.7 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい学習環境で学ばせてほしい。 ・少子化に対応した施設づくりが大切である。 ・校舎が綺麗になったら学校が落ち着いたという話を聞いたことがあり、まずは教育環境を整えることは有効である。 | | | |
| | 効率性 | 評価点数 | 3.3 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・継ぎ足し型ではなく、白糸中学校のように全て建て替えを行うのが好ましい。 ・今後も色々な教育環境の整備が必要である。 ・全市的に児童数が減っていく中で、現状に対応するだけではだめだと思う。 | | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|----------------------|---|--|--------|-----------|----|
| 事務事業名 | 校舎等改修事業費(小・中学校) | 担当課 | 教育総務課 | 事業No | 10 |
| 事業費 (H28決算) | 44,916 千円 (繰越明許費のみ) | 財源内訳 | 繰越金 | 335 千円 | |
| | | | 地方債 | 27,900 千円 | |
| | | | 国府補助金等 | 16,681 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学校等における教育環境の充実 </div> | | | | |
| 事業目的 | 児童生徒の安全を守り、安心して豊かな教育環境を整備する。 | | | | |
| 事業内容 | 学校施設の耐震化について、構造体の耐震診断については、平成20年4月1日時点で100%完了し、また、診断の結果、耐震性がないと判明した棟については、全棟耐震補強工事等を実施しており、耐震化率100%を達成している。平成28年度は、非構造部材の耐震化として、致命的な事故が起こりやすい体育館などの吊り天井の落下防止対策を実施。 | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | 体育館等の吊天井の解消 ・三笠小学校 体育館 ・白糸中学校 剣道場・柔道場 ・城南中学校 武道場 | | | | |
| 課題 | 公立学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には地域住民の避難所となるなど重要な役割を担っており、構造体の耐震化や非構造部材の耐震対策は、極めて重要かつ緊急の課題である。 | | | | |
| 今後の 方向性 | 今後の非構造部材の耐震対策としては、内外壁の落下防止を行う。 | | | | |
| 評価委員による 事業の評価 | 必要性 | 評価点数 | 4.0 | | |
| | | ・耐震対策を十分に行い、避難所を想定した建設が必要である。 ・安全のために必要であるが、建築時に考慮できなかったのか疑問に感じる。 | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 3.3 | | |
| | | ・水や食糧の備蓄もセットで考える必要がある。 ・少しでも児童生徒に関わるリスクを減らす意味では仕方がない。 | | | |
| | 効率性 | 評価点数 | 3.7 | | |
| | | ・効率的かつ計画的な支出を行ってほしい。 ・目先の対応だけになると、先々が心配である。 | | | |

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成28年度事業)

| | | | | | |
|---|--|---|----------------|-------------------|----|
| 事務事業名 | 乳幼児教育ビジョン推進事業費 | 担当課 | 幼稚園・保育所課 | 事業No | 11 |
| 事業費 (H28決算) | 6,255 千円 | 財源内訳 | 一般財源 国府補助金等 | 66 千円 6,189 千円 | |
| 教育振興 大綱の 該当項目 | <p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>・切れ目ない教育の推進 ・質の高い幼児教育の推進</p> | | | | |
| 事業目的 | <p>「主体性を育む乳幼児教育の推進～みんなでつながり育む舞鶴の子ども～」を基本理念とする本市乳幼児教育ビジョンに基づき、0歳から就学前までの質の高い教育・保育の研究・実践を行うとともに、小学校教育との一貫した教育について調査・研究を行う。併せて、文部科学省委託の乳幼児教育の推進体制構築に係る調査研究・発表等を行うことにより、他市のモデルとなる幼児教育の推進を図る。</p> | | | | |
| 事業内容 | <p>1. 乳幼児教育ビジョンの周知 2. 乳幼児教育の質の向上研修 3. 保幼小接続カリキュラム策定研究 4. 乳幼児教育の推進体制構築のための調査研究</p> | | | | |
| 今年度の 取組成果 達成状況 | <p>1. 乳幼児教育ビジョンの周知 講演会 2回、市民説明会 2回、小学校出前授業 1回、FMまいづる出演 2回、広報まいづる特集号 1回、報告会 1回 2. 乳幼児教育の質の向上研修 子どもを主体とした保育・カンファレンス 5回、グループ研修 5回、保幼小連携研修 3回、保幼小中連携研修会 1回 3. 保幼小接続カリキュラム策定研究 カリキュラム策定会議 3回 4. 乳幼児教育の推進体制構築のための調査研究 乳幼児教育推進体制構築事業検討会議 2回、日本保育学会シンポジウムでの発表、雑誌記事掲載、視察・調査受入</p> | | | | |
| 課題 | 策定したビジョンの普及、参加しやすい研修体制の構築、保育士確保に向けた取り組み | | | | |
| 今後の 方向性 | <p>平成28年度に引き続き文部科学省モデル事業の採択を受け、保育者・教員への研修事業の実施、保幼小中接続カリキュラムの策定、乳幼児教育の拠点となるセンターの設置研究、各施設・各分野の連携の推進・接続を図るコーディネーターの育成など、乳幼児教育の推進体制の構築について調査研究を進めるとともに、策定した乳幼児教育ビジョンの理解や普及を図るため、市民向けの情報発信を強化する。なお、研修事業については、平成29年度より始まった保育士等のキャリアパス対象研修と位置付けられるよう取り組みを進める。</p> | | | | |
| 評価委員 による 事業の 評価 | 必要性 | 評価点数 | 5.0 | | |
| | | <p>・母親の孤立、抱え込みから脱却するために必要である。 ・乳幼児教育ビジョンの策定は、今後の乳幼児教育を行ううえで、まさに今日的課題である。 ・子どもと保護者にとって、一番大切な時期なので、どんどん改善してほしい。</p> | | | |
| | 有効性 | 評価点数 | 3.7 | | |
| <p>・効果測定してほしい。 ・私立幼稚園にわかりやすく、丁寧に説明することが必要である。 ・あまり感じられない。</p> | | | | | |
| 効率性 | 評価点数 | 3.7 | | | |
| | <p>・積極的な広報と啓発が必要である。 ・公開保育を実施するなど、成果を出す必要がある。 ・費用としては、それ程大きくないが、効果を生み出さなければ意味がないし、効果が見えにくい部分だと思いが継続してほしい。</p> | | | | |

4 教育委員会活動の概要

(1) 教育委員会の開催状況

平成 28 年度の定例教育委員会は原則として月 1 回、臨時教育委員会は必要に応じてそれぞれ下記のとおり開催しました。

- 定例教育委員会 12 回
- 臨時教育委員会 1 回

(2) 教育委員会審議等状況

平成 28 年度は下記の 37 件の議案について審議しました。

《教育委員会審議案件等一覧》

| 議案番号 | 審議事項 | 審議日 |
|----------|--|---------------------|
| 第 12 号議案 | 舞鶴市教育委員会基本規則の一部を改正する規則制定について (専決第 1 号) | H28. 4. 26 (定例会) |
| 第 13 号議案 | 学校教育指導主事の設置等に関する規則の一部を改正する規則制定について (専決第 2 号) | |
| 第 14 号議案 | 文化財保護条例施行規則の一部を改正する規則制定について (専決第 3 号) | |
| 第 15 号議案 | 図書館規則の一部を改正する規則制定について (専決第 4 号) | |
| 第 16 号議案 | 舞鶴市スポーツ推進委員に関する規則廃止について (専決第 5 号) | |
| 第 17 号議案 | 教育委員会の所管に係る舞鶴市個人情報保護条例施行規則の一部を改正する規則制定について (専決第 6 号) | |
| 第 18 号議案 | 舞鶴市立の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について (専決第 7 号) | |
| 第 19 号議案 | 舞鶴市教育委員会職員の人事異動について (専決第 8 号) | |
| 第 20 号議案 | 舞鶴市社会教育委員の委嘱について (専決第 9 号) | |
| 第 21 号議案 | 舞鶴市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服務に関する規程の一部を改正する訓令制定について | |
| 第 22 号議案 | 舞鶴市学校アドバイザーの委嘱について | H28. 5. 30 (定例会) |
| 第 23 号議案 | 市議会 6 月定例会への補正予算案の提出について (専決第 10 号) | H28. 6. 21 (定例会) |

| 議案番号 | 審議事項 | 審議日 |
|----------|--|----------------------|
| 第 24 号議案 | 舞鶴市立小学校及び中学校の通学区域を定める告示の廃止について | H28. 8. 29 (定例会) |
| 第 25 号議案 | 舞鶴市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の制定について | |
| 第 26 号議案 | 舞鶴市立小学校及び中学校の就学指定校の変更に関する要綱の制定について | |
| 第 27 号議案 | 市議会 9 月定例会への補正予算案の提出について | |
| 第 28 号議案 | 「平成 27 年度事務事業評価」の結果について | |
| 第 29 号議案 | 舞鶴市指定文化財の解除について（専決第 11 号） | |
| 第 30 号議案 | 平成 29 年度教職員の人事異動について（専決第 12 号） | H28. 11. 30 (定例会) |
| 第 31 号議案 | 市議会 12 月定例会への補正予算案の提出について（専決第 13 号） | H28. 12. 27 (定例会) |
| 第 32 号議案 | 舞鶴市教育委員会基本規則の一部を改正する規則制定について | |
| 第 33 号議案 | 舞鶴市教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例案の提案について（専決第 13 号） | H29. 1. 25 (定例会) |
| 第 1 号議案 | 舞鶴市公民館条例施行規則の一部を改正する規則制定について | |
| 第 2 号議案 | 舞鶴市社会教育委員の委嘱について | |
| 第 3 号議案 | 舞鶴市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服務に関する規程の一部を改正する訓令制定について | H29. 2. 23 (臨時) |
| 第 4 号議案 | 舞鶴市立の小学校及び中学校の校長並びに教頭の任免について | |
| 第 5 号議案 | 舞鶴市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について | H29. 2. 28 (定例会) |
| 第 6 号議案 | 舞鶴市教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例案の提案について（専決第 2 号） | |
| 第 7 号議案 | 市議会 3 月定例会への補正予算案の提出について | |
| 第 8 号議案 | 平成 29 年度舞鶴市一般会計の教育委員会の所掌に係る予算見積書の提出について | |
| 第 9 号議案 | 舞鶴市立学校及び幼稚園におけるハラスメントの防止等に関する規程の一部を改正する訓令について（専決第 4 号） | H29. 3. 24 (定例会) |
| 第 10 号議案 | 学校教育指導主事の設置等に関する規則の一部を改正する規則制定について | |
| 第 11 号議案 | 社会教育指導員の設置に関する規則の廃止について | |
| 第 12 号議案 | 図書館規則の一部を改正する規則の制定について | |
| 第 13 号議案 | 舞鶴市学校運営協議会規則の制定について | |
| 第 14 号議案 | 舞鶴市小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について | |
| 第 15 号議案 | 平成 29 年度学校教育の重点について | |